



恋をしていた

もう長い間ずっと



だからって
どうにもなりは
しないケド



マネキン♡ラウアー



自分の意志では
指一本動かせないし

ましてや
言葉を発するなんて
できやしない



なぜなら俺は
マネキンだから

それでも昔は
れっきとした
人間だった



悪い魔女の呪いで
こんな姿に
変えられて
しまったってワケ

あらっ



なんてーの、
アレ

グリム童話
みたいなの？

何が彼女の怒りを
買ったのか
忘れてしまったけど

本気で愛する
人間とのくちづけで
呪いは解けるよ

—なんて

そんなの
絶望的でシヨ—

アキコに
アスなんてねえ……

そうして月日は経ち

ボーッ

あれやこれやの経緯があつて

今はここ

イルカー

火影衣料品店に
落ち着いている

僕は
出かけるから

ハンサムくんの服
今日届いたものに
変えといてネー

↑
ハンサムくん

はい

行ってらっしゃい
店長

イルカに初めて
会ったのは

彼がまだ小さな
子供の頃だった



イルカよ

ここがワシの
店じゃ



じー

このお人形さん
なんだか
悲しそう





わざわざ
踏み台を使って
薄汚れてきた俺を
拭いてくれた

グシ
グシ



彼が手に
していたのが
雑巾だった事は

わー！
まっくらー！

ま、愛嬌だ

顔のキズ

俺と
おそろいだね

にはっ



なんてことだ！

その瞬間

俺は恋に落ちてしまっていた





俺は傍観者だ



イルカの笑顔も涙も

すべては目の前を通り過ぎていく

じいも
四代目です

ミナトが
四代目の店長に
なった頃

イルカはこの店で
バイトとして
働き始めた

彼に触れられると
血の通わないこんな身体でも

相変わらず
イルカは俺の
世話をしてくれる

おれんじさん

手足がなんだか
あったかくなるような
気がして

彼を好きだと
思う

無性に
抱きしめたいと
願う

でもそんな未来
ありはしない

おれんじさん

せめてあと数十年
彼の姿を見続けていられたら――



マスキ ♡ ラヴァー



なんてこった！



俺のファーストキスを
マネキンに
捧げてしまった！



わ~~~~っ!!

突然動き出した
マネキンは

自らを
「カカシ」だと
名乗り

ドーム

そして
事の成り行きを
説明してくれた

つまり

熱いくちづけで
俺を人間の姿に
戻してくれたイルカは

王子さまって
ワケだ

ずいっ

は、
はあ……

俺を
自由の身にして
くれて
ありがとうね

木の葉

木の葉商店街



正気？

もちろん
です！

大丈夫、
バレません！

どうせこの店に
客がいる事自体
まれなんですから

なにを
どうせ
どうせ
どうせ
どうせ

何の
根拠もない
自信……

ちよ、
ちよつと

せめて
寝る場所くらい
与えてヨ

今生身
なんだからネ！

なんで
俺が……

アンタが
呪いを解いたんだから

責任
とってヨ！

がしっ

——結果

サキニョー

交換条件
成立





ところで
イルカ

はい？

何ですか？

近い！

俺――



一日最低
一回はキスしないと

マネキンに
戻っちゃうん
だよー



――はあ？



な、

ななな



ちゅ



そーゆー
ワケで

これから
毎日
ヨロシクね ♪

は、

はあ~~~~!!?

やっぱり
放り出せば
よかったかな……

マネキン



ラグアー



な、なんで
見てるんですか？





昔 三代目の
肩をよく
もんでたんです

—そっか

イルカ

ね、

ぐっ
ぐっ

はい？

あっ

hang around
on
the way

ちゅ









だって
だって俺



俺

イルカが好きなの！

え？

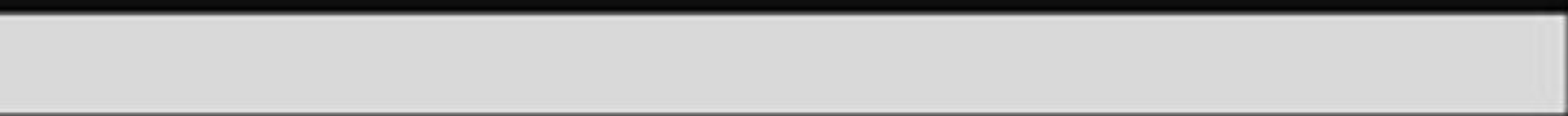
初めてイルカが
店に来た日から
ずっと

俺の世界には
イルカしかいなかった

ずっとこうやって
イルカの事

抱きしめ
たかったヨ

……いや













本当は

っっー

余裕なんて
全然無いんだけどネ

あっ

ぬふ。ふふ。

イルカが
欲しくて欲しくて

どうにか
なっちやいそう

はあ

やつ

あっ

はあ

ぐち

ぐち

入れるね



ひどく昂った

ああっ

イルカも
俺の熱を感じる事が
できるんだと思ったら



早く
俺の事

好きに
なっ
てネ



ごめーんネ

ふん
すか



ねえ
イルカ

はい？



〜なんでも
ないです



そんなの
もう……

ん？

—



これからも
傍にいる

END